

岩手県感染症週報

平成31年第16週(4月15日～4月21日)

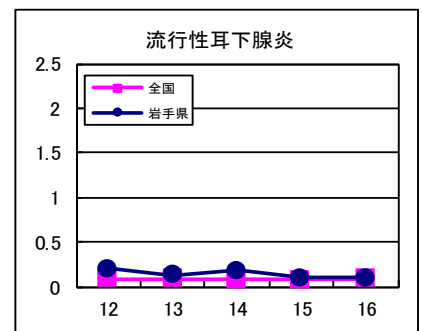
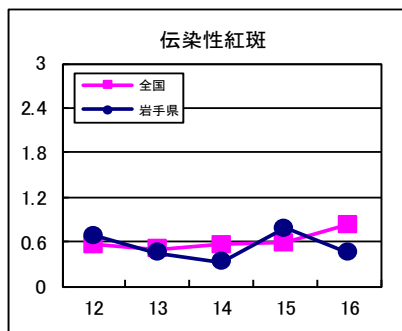
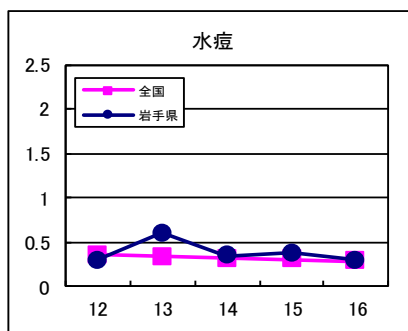
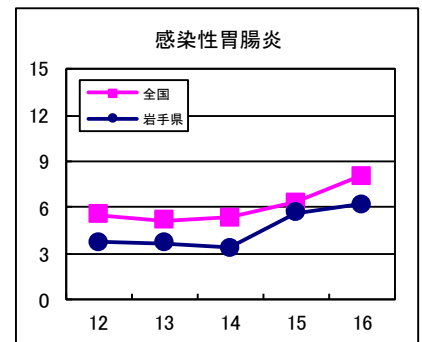
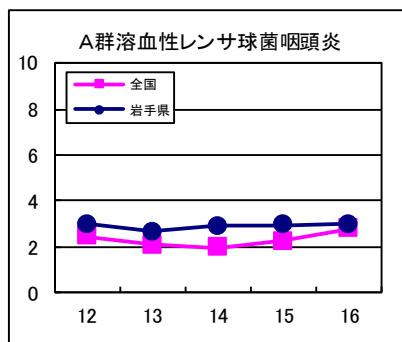
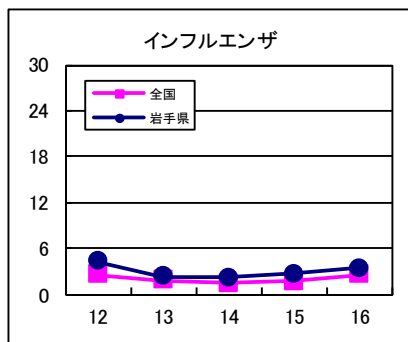
岩手県感染症情報センター

第16週の概要

- 1 類感染症 ・患者発生の報告はありませんでした。
- 2 類感染症 ・結核の報告が6例ありました。このうち2例は潜在性結核でした。
- 3 類感染症 ・患者発生の報告はありませんでした。
- 4 類感染症 ・A型肝炎の報告が、盛岡市から1例ありました。患者は40歳代の男性です。
- 5 類感染症 (全数把握対象疾患)
 - ・急性脳炎の報告が、盛岡市から1例ありました。患者は20歳代の女性です。
 - ・劇症型溶血性レンサ球菌感染症の報告が、宮古地区から1例ありました。患者は80歳代の男性です。
 - ・侵襲性肺炎球菌感染症の報告が、中部地区から1例ありました。患者は90歳代の女性です。
- 5 類感染症 (定点把握対象疾患)
 - ・感染性胃腸炎は、ロタウイルスの報告数が5週続けて増加しました。ロタウイルスによる胃腸炎は、乳幼児に多く、保育所等で集団感染事例も続発しています。ロタウイルスは感染力が強く、アルコールなどの消毒薬ではあまり効き目がありません。衣類が便や吐物で汚れたときは、塩素系薬剤で消毒し、さらに、他の衣類と分けて洗濯することが重要です。
 - ・インフルエンザは、2週続けて増加しました。学校等休業措置も報告されています。予防対策の基本である流水とせっけんによる手洗い、咳やくしゃみ等の症状がある場合の飛沫感染対策として、咳エチケットが重要です。
 - ・大型連休中に海外に渡航する方は、感染症にかからないために、正しい知識や予防法を身に付ける必要があります。厚労省検疫所や外務省のホームページ等で渡航先情報の確認をしてください。帰国後、体調に異常がある場合は、医療機関に渡航歴を伝えることが重要です。

最近の注目疾患 (定点あたり患者数の過去5週の動き)

(疾患によって目盛りのスケールが違うことに注意)



定点把握対象疾患 (過去5週の動き)

報告週対応表 <http://www.nih.go.jp/niid/ja/calendar.html>

※2018年1月1日より百日咳が5類感染症 (定点把握疾患) から5類感染症 (全数把握疾患) へ変更されました。
 ※2013年第42週より感染性胃腸炎 (ロタウイルス) が定点把握対象疾患となりました。

(定点あたり患者数)

疾病名	地域	週					流行傾向	
		12	13	14	15	16		
インフルエンザ	岩手県	4.26	2.29	2.12	2.69	3.37	↗	☆
	全国	2.49	1.73	1.46	1.67	2.54		
RSウイルス感染症	岩手県	0.25	0.13	0.1	0.3	0.35	→	☆
	全国	0.5	0.49	0.44	0.52	0.58		
咽頭結膜熱	岩手県	0.23	0.18	0.18	0.43	0.45	→	☆
	全国	0.34	0.34	0.28	0.31	0.39		
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	岩手県	3	2.65	2.9	2.95	3	→	☆
	全国	2.46	2.07	1.94	2.26	2.76		
感染性胃腸炎	岩手県	3.75	3.68	3.38	5.65	6.23	↗	☆
	全国	5.51	5.17	5.35	6.3	8.02		
水痘	岩手県	0.3	0.6	0.35	0.38	0.3	→	☆
	全国	0.36	0.34	0.32	0.31	0.29		
手足口病	岩手県	0.38	0.38	0.2	0.1	0.13	→	☆
	全国	0.15	0.19	0.17	0.28	0.39		
伝染性紅斑	岩手県	0.68	0.45	0.33	0.78	0.45	↘	☆
	全国	0.56	0.5	0.56	0.58	0.83		
突発性発疹	岩手県	0.25	0.4	0.23	0.6	0.53	→	☆
	全国	0.37	0.37	0.39	0.44	0.5		
ヘルパンギーナ	岩手県	0	0	0	0	0.03	→	
	全国	0.02	0.03	0.04	0.04	0.07		
流行性耳下腺炎	岩手県	0.2	0.13	0.18	0.1	0.1	→	☆
	全国	0.09	0.09	0.08	0.08	0.09		
急性出血性結膜炎	岩手県	0	0	0	0	0	→	
	全国	0.01	0.02	0.01	0.01	0.01		
流行性角結膜炎	岩手県	0.5	0.57	0.43	0.36	0.79	→	☆
	全国	0.53	0.6	0.62	0.55	0.64		
細菌性髄膜炎	岩手県	0	0	0	0	0	→	
	全国	0.01	0.02	0.03	0.02	0.02		
無菌性髄膜炎	岩手県	0	0	0	0	0	→	
	全国	0.02	0.01	0.02	0.04	0.03		
マイコプラズマ肺炎	岩手県	0	0.11	0.11	0.05	0.21	→	☆
	全国	0.09	0.14	0.09	0.12	0.15		
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	岩手県	0	0	0	0	0	→	
	全国	0	0.01	0.01	0.01	0		
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	岩手県	0.16	0.42	0.84	1.37	2.32	↗	☆☆
	全国	0.38	0.43	0.52	0.63	0.97		
インフルエンザ (入院患者) ※報告数であることに注意	岩手県	17	12	8	5	6		
	全国	298	206	178	179	177		

【流行傾向の見方】

- 無印 : ほとんど患者が発生していません
- ☆ : 患者が発生しています
- ☆☆ : 警報値を超えた地区が1～2地区あります
- ☆☆☆ : 多くの地区で警報値を超えています

全数把握対象疾患 (過去5週の動き)

※ジカウイルス感染症が2016年2月15日から四類感染症に追加されました。

(患者発生数)

分類	疾病名	(週)					累計	全国	
		12	13	14	15	16		16	累計
一類 感染症	エボラ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	クリミア・コンゴ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	痘そう	0	0	0	0	0	0	0	0
	南米出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	ペスト	0	0	0	0	0	0	0	0
	マールブルグ病	0	0	0	0	0	0	0	0
	ラッサ熱	0	0	0	0	0	0	0	0
二類	急性灰白髄炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	結核 () 内は潜在性結核感染症患者再掲	5 (3)	4 (2)	2 (0)	3 (2)	6 (2)	64 (30)	367	6155
	ジフテリア	0	0	0	0	0	0	0	0
	重症呼吸器症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	中東呼吸器症候群 (MERS)	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H5N1)	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H7N9)	0	0	0	0	0	0	0	0
三類	コレラ	0	0	0	0	0	0	0	1
	細菌性赤痢	0	0	0	0	0	0	2	30
	腸管出血性大腸菌感染症	0	0	0	0	0	1	27	317
	腸チフス	0	0	0	0	0	1	0	9
	パラチフス	0	0	0	0	0	0	1	7
	E型肝炎	0	0	1	0	0	1	16	146
四類 感染症	ウエストナイル熱 (ウエストナイル脳炎を含む)	0	0	0	0	0	0	0	0
	A型肝炎	0	0	0	0	1	4	8	139
	エキノコックス症	0	0	0	0	0	0	0	3
	黄熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	オウム病	0	0	0	0	0	0	1	9
	オムスク出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	回帰熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	キャサナル森林病	0	0	0	0	0	0	0	0
	Q熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	狂犬病	0	0	0	0	0	0	0	0
	コクシジオイデス症	0	0	0	0	0	0	0	1
	サル痘	0	0	0	0	0	0	0	0
	ジカウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)	0	0	0	0	0	0	1	9
	腎症候性出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	西部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ダニ媒介脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	炭疽	0	0	0	0	0	0	0	0
	チクングニア熱	0	0	0	0	0	0	0	2
	つつが虫病	0	0	0	0	0	0	1	46
	デング熱	0	0	1	0	0	1	6	93
	東部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H5N1、H7N9を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0
	ニパウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	日本紅斑熱	0	0	0	0	0	0	0	11
	日本脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハンタウイルス肺症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	Bウイルス病	0	0	0	0	0	0	0	0
	鼻疽	0	0	0	0	0	0	0	0
	ブルセラ症	0	0	0	0	0	0	0	1
	ベネゼエラウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ヘンドラウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	発疹チフス	0	0	0	0	0	0	0	0
	ボツリヌス症	0	0	0	0	0	0	0	1
	マラリア	0	0	0	0	0	0	1	11
野兔病	0	0	0	0	0	0	0	0	
ライム病	0	0	0	0	0	0	0	0	
リッサウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	
リフトバレー熱	0	0	0	0	0	0	0	0	
類鼻疽	0	0	0	0	0	0	0	0	
レジオネラ症	0	0	0	0	0	3	15	389	
レプトスピラ症	0	0	0	0	0	0	0	2	
ロッキー山紅斑熱	0	0	0	0	0	0	0	0	

全数把握対象疾患 (続き) (過去5週の動き)

(患者発生数)

分類	疾病名	岩手県					全国		
		(週) 12	13	14	15	16	累計 16	累計	
五類感染症	アメーバ赤痢	0	0	0	0	0	0	14	269
	ウイルス性肝炎 (A型肝炎及びE型肝炎を除く)	0	0	0	0	0	0	2	95
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	0	0	0	1	0	1	25	564
	急性弛緩性麻痺	0	0	0	0	0	0	0	16
	急性脳炎 (ウエストナイル脳炎及び日本脳炎を除く)	0	0	0	0	1	5	5	350
	クリプトスポリジウム症	0	0	0	0	0	0	0	5
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	0	0	0	0	1	47
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	0	0	0	1	2	11	287
	後天性免疫不全症候群	0	0	0	0	0	0	12	357
	ジアルジア症	0	0	0	0	0	0	0	11
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	0	0	0	0	0	0	5	192
	侵襲性髄膜炎菌感染症	0	0	0	0	0	0	1	18
	侵襲性肺炎球菌感染症	1	0	0	1	1	6	68	1189
	水痘 (入院例)	0	0	0	0	0	0	6	121
	先天性風しん症候群	0	0	0	0	0	0	0	1
	梅毒	0	0	0	1	0	4	85	1899
	播種性クリプトコックス症	0	0	0	0	0	0	3	44
	破傷風	0	0	0	0	0	0	2	16
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	0	0	0	0	0	1	27
百日咳	1	2	1	0	0	12	198	4883	
風しん	0	0	0	0	0	1	46	1331	
麻しん	0	0	0	0	0	1	19	422	
薬剤耐性アシネトバクター感染症	0	0	0	0	0	0	0	12	

今注目の感染症

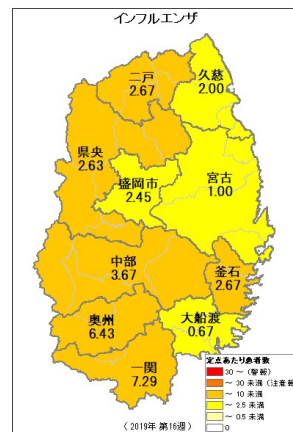
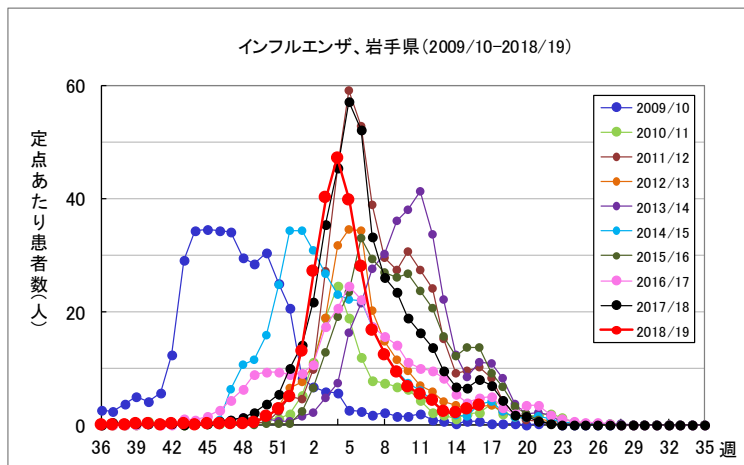
インフルエンザ

インフルエンザは、インフルエンザウイルスを病原体とする急性の呼吸器感染症で、毎年世界中で流行がみられます。潜伏期間は1日～3日程で、38℃以上の発熱、頭痛、筋肉痛、関節痛などの症状が突然現れ、鼻水や咳などの呼吸器症状が続きます。

岩手県では、例年、11月下旬から12月上旬頃に発生が始まり、1月から3月頃に患者数が増加します。今シーズンは第50週に定点あたり患者数が1.45人となり、流行開始の目安である1.0人を上回りました。その後増加が続き、第3週には定点あたり患者数が40.03人となり、警報値である30人を超え本格的な流行状態に入りました。第4週には定点あたり患者数が47.11人とピークとなり、第5週以降減少が続いています。一度かかった方が、その後、別の型にかかることもあるので引き続き注意が必要です。

主な感染経路は咳やくしゃみなどによる飛沫感染と、飛沫の付着物に触れた手指などを介した接触感染です。予防には、マスクの着用などの咳エチケットによる飛沫感染対策と、手洗いによる接触感染対策が重要です。また、症状がある場合には早めに医療機関を受診することが勧められます。

参考 インフルエンザとは (国立感染症研究所)
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/219-about-flu.html>



※国土交通省国土政策局「H29年1月1日時点国土数値情報(行政区域データ)」をもとに岩手県が編集・加工した。
 ※この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図(国土基本情報)電子国土基本図(地図情報)」を使用した。(承認番号 平29情使、第675号)

岩手県 第16週

今注目の感染症 (つづき)

風しん

風しんは、風しんウイルスによって引き起こされる、発熱、発疹、リンパ節の腫脹を特徴とする急性の発疹性感染症です。風しんウイルスは、患者の飛沫(唾液のしぶき)などによりヒトからヒトへ感染します。潜伏期間は2週間程度で、発疹が出る前後1週間位がヒトへの感染力があるとされています。風しんに免疫を持たない妊婦の方が妊娠第20週頃までに感染すると、「先天性風しん症候群」という目や心臓、耳などに障害を持つ子供が生まれる可能性があり、妊婦への感染を防止することが重要です。

全国では、2018年第30週以降、関東地方で報告数が大幅に増加し、2018年の累積報告数は2,917人と、全国流行があった2013年(14,344人)に次いで2番目に多い報告数となりました。2019年は第15週までに1,276人が報告されています。男女別にみますと、男性の報告数(1011人)が女性の報告数(265人)の約3.8倍となっており、今回の流行は、風しんの抗体を保有していない30~50代の男性で感染が拡大しているとみられます。

岩手県では、全数把握疾患となった2008年以降、2019年第16週までに23人報告されています。全国流行があった2013年には9人の報告がありました。

予防にはワクチン接種が最も効果的です。2回の定期予防接種(1歳児と小学校入学前1年間)を徹底しましょう。また、2021年度末までの期間に限り、これまで風しんの定期接種を受ける機会がなかった昭和37年4月2日から昭和54年4月1日生まれの男性(現在39~56歳)が定期予防接種の対象者として追加されました。また、妊婦への感染を防止するため、予防接種歴や抗体陽性が確認できない「妊婦の夫、子どもや同居家族」、「妊娠希望者や妊娠の可能性が高い女性」の方は、任意で予防接種を受けることが推奨されます。

参考 風疹とは(国立感染症研究所)

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/430-rubella-intro.html>

風疹流行に関する緊急情報: 2019年4月17日現在(国立感染症研究所)

<https://www.niid.go.jp/niid/images/epi/rubella/2019/rubella190417.pdf>

風しんの追加的対策について(厚生労働省)

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou/kekaku-kansenshou/rubella/index_00001.html

1. 風しん累積報告数の推移 2013~2019年(第1~15週)

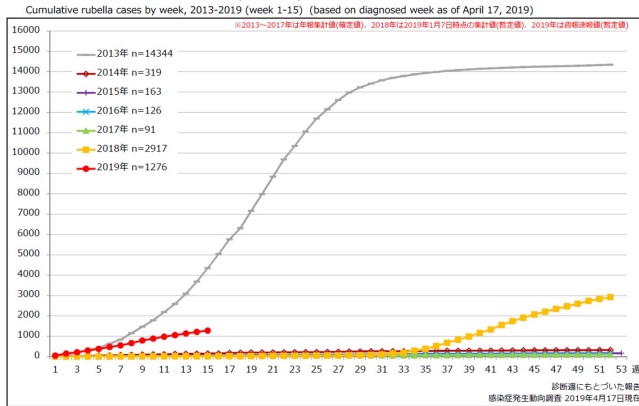


図1 全国における風しん累積報告数の推移 (2013~2019年第15週) (国立感染症研究所HPより)

6. 年齢別風しん累積報告数割合(男女別) 2019年 第1~15週 (n=1276)

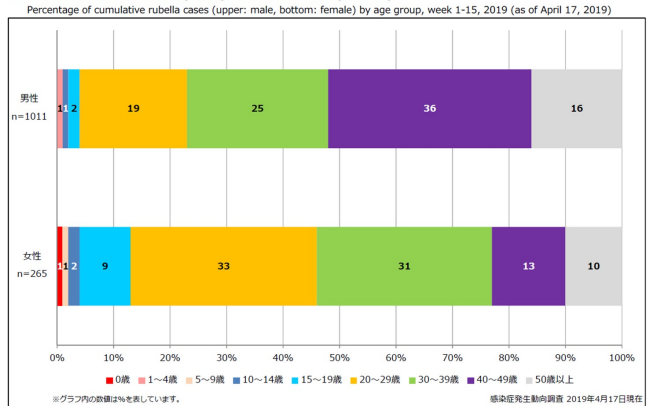


図2 全国における年齢別、男女別風しん累積報告数 (2019年第1~15週) (国立感染症研究所HPより)

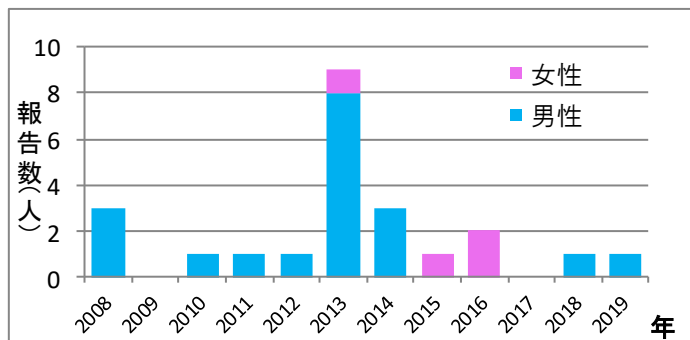


図3 岩手県における年別・性別風しん報告数 (2008~2019年第16週)

今注目の感染症（つづき）

梅毒

梅毒は、感染力が強い「梅毒トレポネーマ」という、らせん状の細菌によって引き起こされます。主に、感染している人の病変部（性器、口唇部、口腔内、肛門等）と直接接する性行為や疑似性行為により「梅毒トレポネーマ」が粘膜や皮膚などの傷口から侵入して感染します。

感染後3週間程度の潜伏期の後に、感染部位にしこりや潰瘍がみられるようになりますが、数週間程度で症状がなくなります（早期顕症Ⅰ期）。その後、治療をせずに数週間～数カ月経過すると、病原体が血液によって全身に運ばれ、手のひらや足の裏、体全体に発疹がみられるようになります（早期顕症Ⅱ期）。さらに、感染後数年～数十年経過すると、ゴムのような腫瘍、心血管症状、神経症状などが出現する場合があります（晩期顕症）。妊娠している方が梅毒に感染すると、胎盤を通して胎児に感染し、死産、早産、新生児死亡や奇形が起こることがあります。

早期顕症と晩期顕症の間には症状が消える無症候期がありますが、体内には梅毒トレポネーマが残っており、感染を広げる恐れがあります。この無症候期が診断・治療の遅れにつながるため、注意が必要です。また、終生免疫は得られないため、再感染する可能性があります。

全国では、2010年以降、報告数が増加傾向に転じています。男女の異性間性交渉での感染が増加しているほか、性風俗店利用者での梅毒の報告数が増加しています。岩手県では、例年、数例の報告でしたが、2016年に9例、2017年に16例、2018年には29例が報告されました。2019年は第16週までに4例報告されています。

梅毒は早期発見、早期検査、早期治療が重要です。感染が疑われる症状がみられた場合は、早めに医師の診断や治療を受けましょう。また、感染していたことがわかった場合は、周囲で感染の可能性のある方（パートナー等）と一緒に検査を行い、必要に応じて治療を行うことが重要です。

岩手県では、県内各保健所において、匿名、無料で梅毒検査を行っています。他の性感染症も含め、適切な予防対策を取り、症状がみられるなど不安がある場合には、検査や医療機関を受診するよう心がけましょう。

参考 IASR 2015年2月号（国立感染症研究所）

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/id/742-disease-based/ha/syphilis/idsc/iasr-topic/5404-tpc420-j.html>

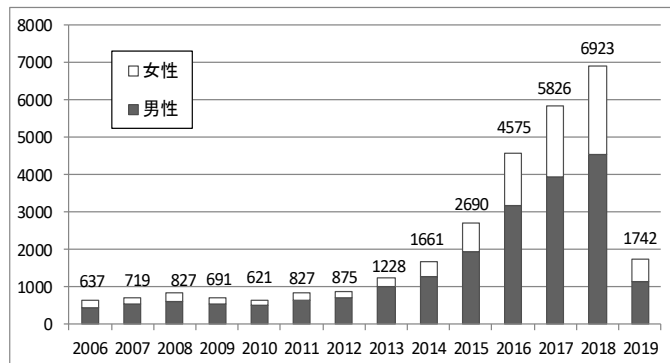


図1 全国における梅毒患者届出数の推移（2006年～2019年第15週）

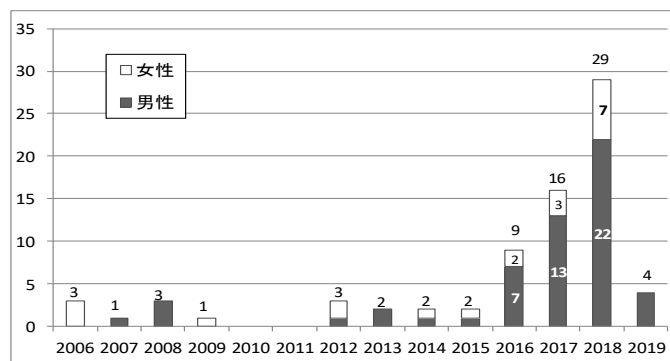


図2 岩手県における梅毒患者届出数の推移（2006年～2019年第16週）

今注目の感染症（つづき）

麻疹

麻疹は、麻疹ウイルスによって引き起こされる急性の全身感染症です。感染経路は空気感染、飛沫感染、接触感染で、感染力は非常に強く、免疫を持っていない人が感染するとほぼ100%発症するといわれています。

症状としては、感染から約10日後に発熱や咳、鼻水といった風邪のような症状が現れ、2～3日熱が続いた後、39℃以上の高熱と発疹が出現します。また、ヒトの体内に入った麻疹ウイルスは一時的に免疫機能を抑制するため肺炎や中耳炎などの合併症をおこしやすく、患者1,000人に1人の割合で脳炎が発症するといわれています。

全国では、2008年に10～20歳を中心に流行し、11,013例の報告がありました。2009年以降は35～732例で推移しています。2018年の累積報告数は282例でした。2019年は、第2週以降急増しており、第15週までに406例が報告されています。

岩手県では2012年第12週以降届出がありませんでしたが、2019年第4週に1例報告がありました。2008年に全数把握疾患に変更になってから、2019年第16週までに23例が報告されています。

予防にはワクチン接種が最も有効です。定期予防接種は、1歳児と小学校入学前1年間の幼児の2回です。自分が感染しないためだけでなく、周囲の人に感染させないためにも予防接種を受けることが勧められます。また、海外では、麻疹が多く発生している地域がいまだに多くあります。海外旅行を予定されている方は、ワクチン接種歴等を確認の上、必要に応じてワクチン接種を行うことが推奨されます。帰国後は麻疹を発症する可能性も考慮して、2週間程度は健康状態に注意することも重要です。

また、麻疹を疑う症状があり、医療機関を受診する場合は、感染拡大を防止するため、事前に医療機関に連絡してから受診することが重要です。

参考

麻疹について（厚生労働省）

http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/measles/index.html

麻疹とは（国立感染症研究所）

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/diseases/ma/measles.html>

IDWR 2019年第10号 注目すべき感染症 麻疹（国立感染症研究所）

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/measles-m/measles-idwrc.html>

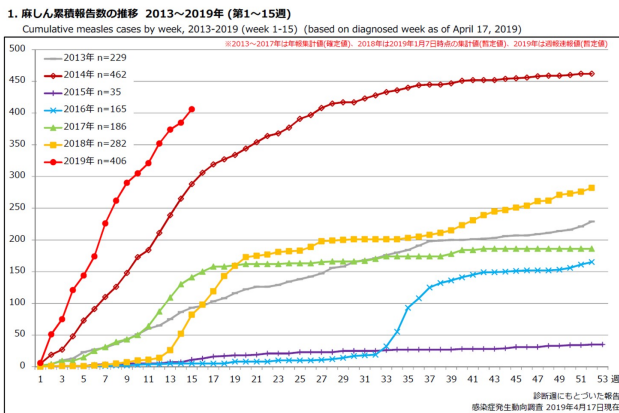


図1 全国における麻疹累積報告数の推移（2013～2019年第15週）（国立感染症研究所HP）

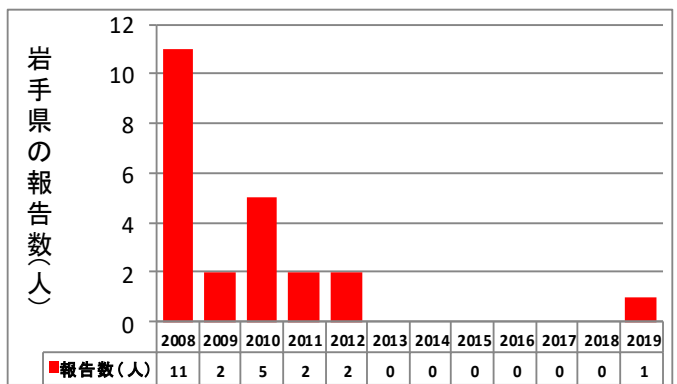


図2 岩手県における年別麻疹報告数（2008～2019年第16週）

病原体検出情報

- ・この週には病原体検出情報はありません。

集団感染情報

○感染性胃腸炎の集団発生について

- ・北上市内の保育所（園児111名、職員28名）
4月1日（月）から4月14日（日）にかけて、園児17名、職員2名に症状（嘔吐、下痢等）
有症者2名からロタウイルス、有症者1名からノロウイルスを検出
- ・北上市内の保育所（園児76名、職員26名）
4月5日（金）から4月16日（火）にかけて、園児14名に症状（嘔吐、下痢等）
有症者1名からロタウイルスを検出
- ・盛岡市内の認定こども園（園児180名、職員56名）
4月4日（木）から4月19日（金）にかけて、園児26名、職員1名に症状（下痢、嘔吐、発熱等）
有症者3名からロタウイルスを検出
- ・盛岡市内の保育園（園児102名、職員35名）
4月8日（月）から4月22日（月）にかけて、園児26名、職員1名に症状（下痢、嘔吐、発熱等）
有症者7名からロタウイルスを検出
- ・盛岡市内の保育園（園児100名、職員28名）
4月11日（木）から4月23日（火）にかけて、園児22名に症状（嘔吐、下痢、発熱等）
有症者5名からロタウイルスを検出
- ・盛岡市内の保育園（園児57名、職員21名）
4月12日（金）から4月23日（火）にかけて、園児17名、職員2名に症状（嘔吐、下痢、発熱等）
有症者8名からノロウイルスを検出
- ・花巻市内の幼稚園（園児79名、職員15名）
4月16日（火）から4月22日（月）にかけて、園児13名に症状（嘔吐、下痢等）
有症者5名からロタウイルスを検出
- ・八幡平市内の保育所（園児95名、職員17名）
4月15日（月）から4月20日（土）にかけて、園児10名に症状（嘔吐、下痢等）
有症者5名からノロウイルスを検出
- ・八幡平市内のこども園（園児94名、職員20名）
4月9日（火）から4月22日（月）にかけて、園児11名に症状（嘔吐、下痢等）
有症者9名からロタウイルスを検出

○インフルエンザによる学校等の休業措置について

- ・岩手県 6件
- ・盛岡市 1件

医療機関からの情報

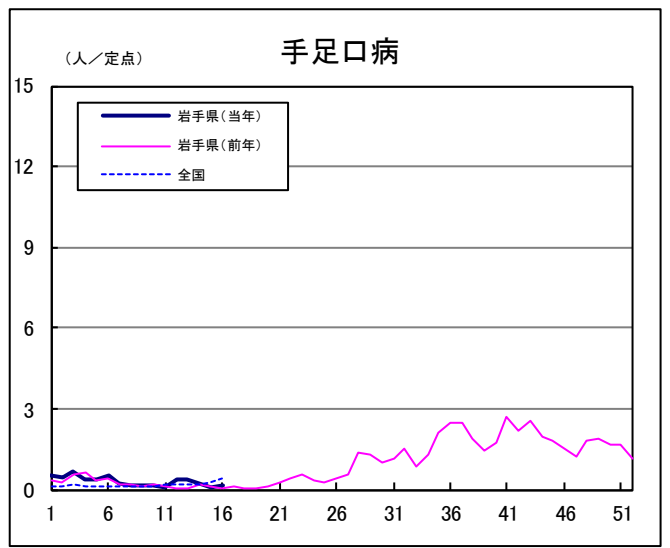
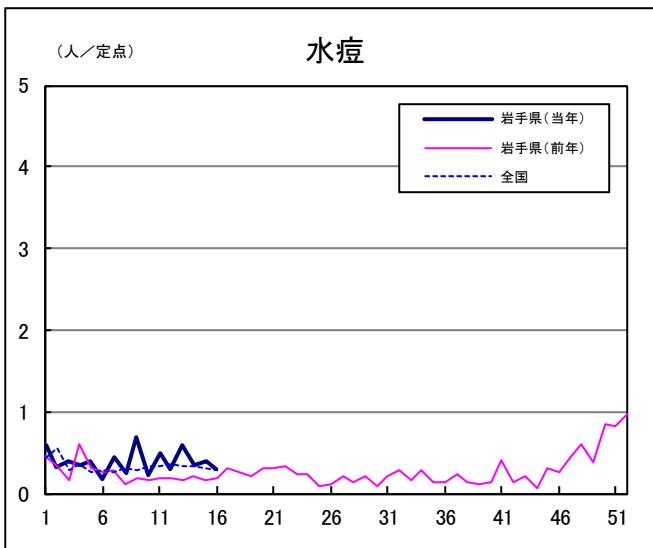
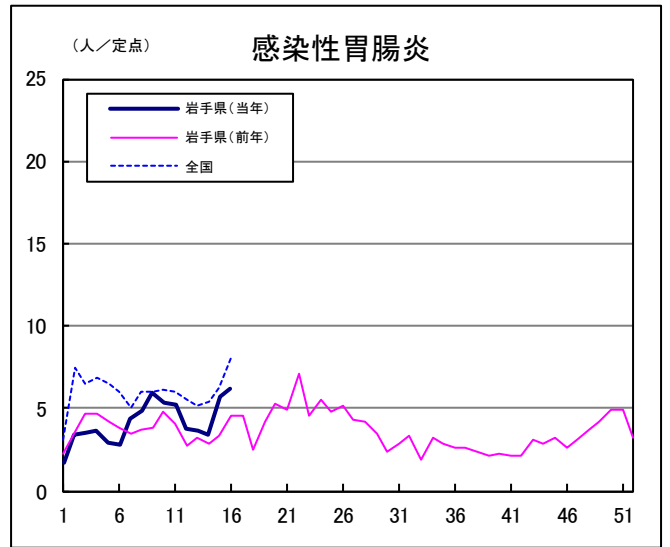
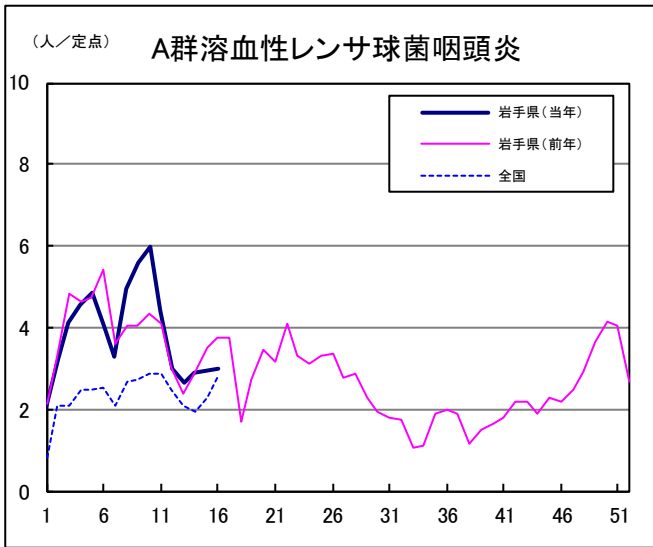
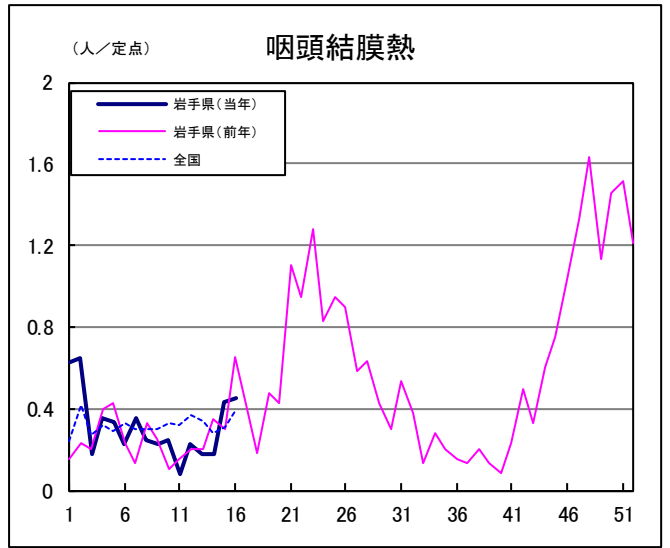
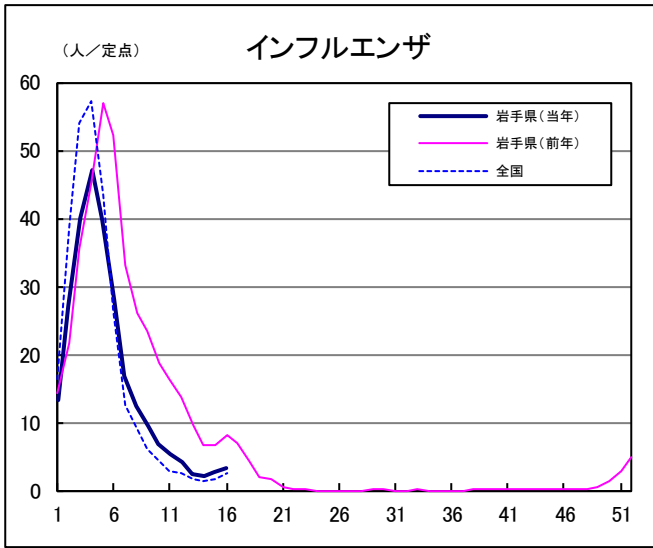
- ・この週には医療機関からの情報はありません。

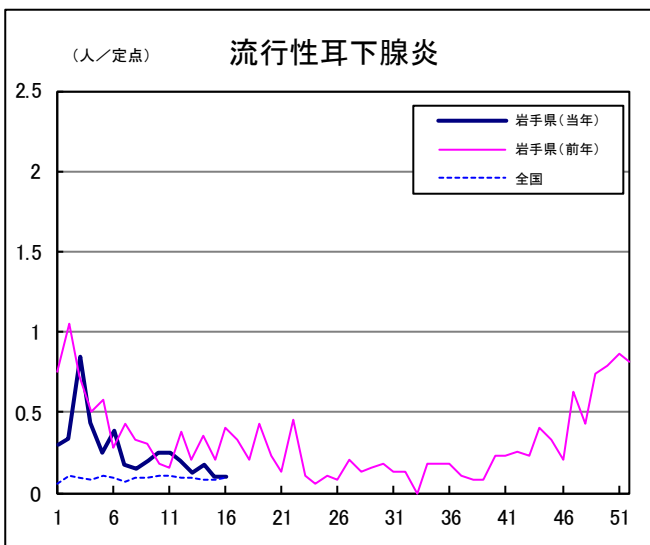
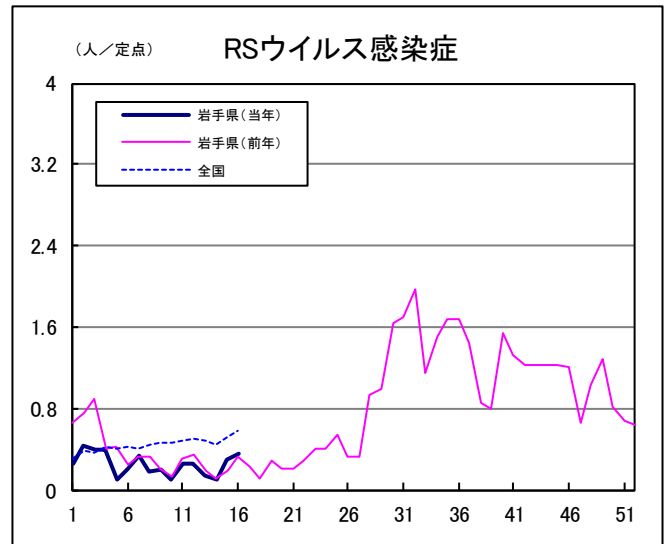
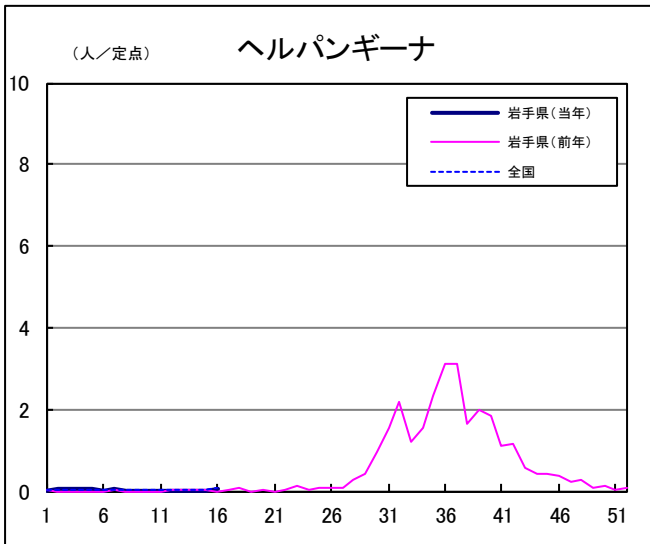
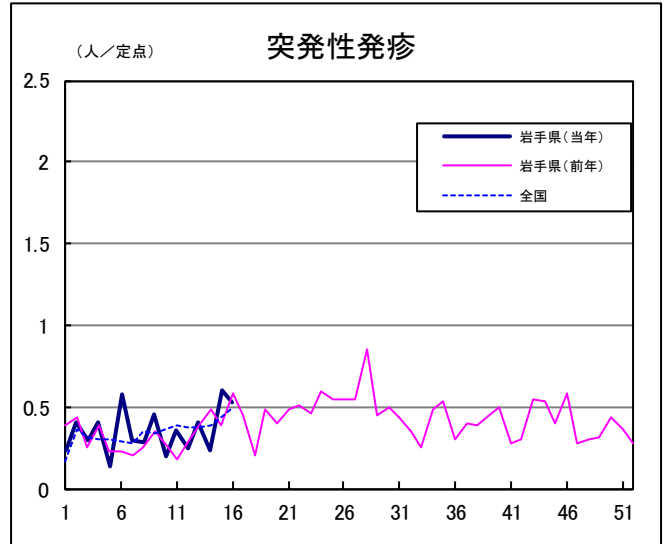
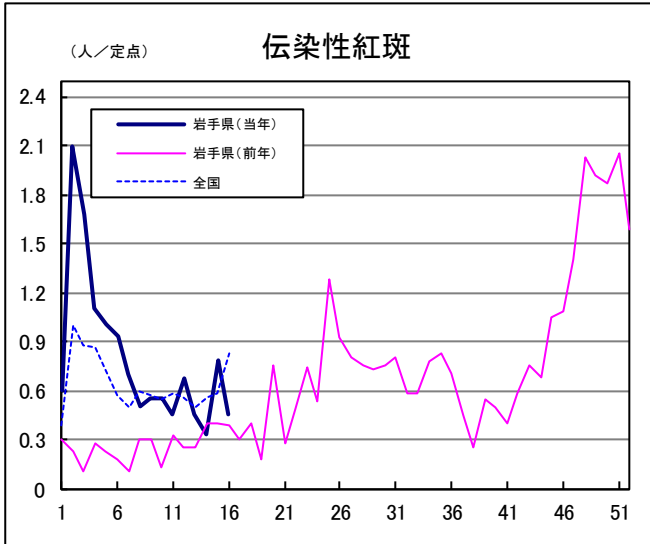
Q & A

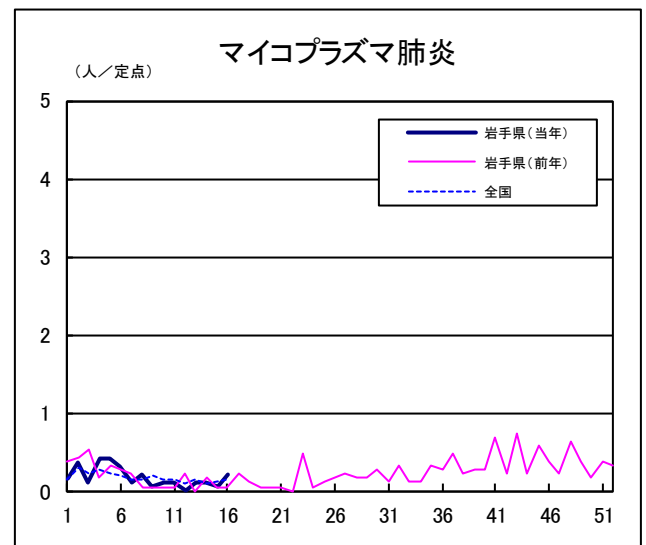
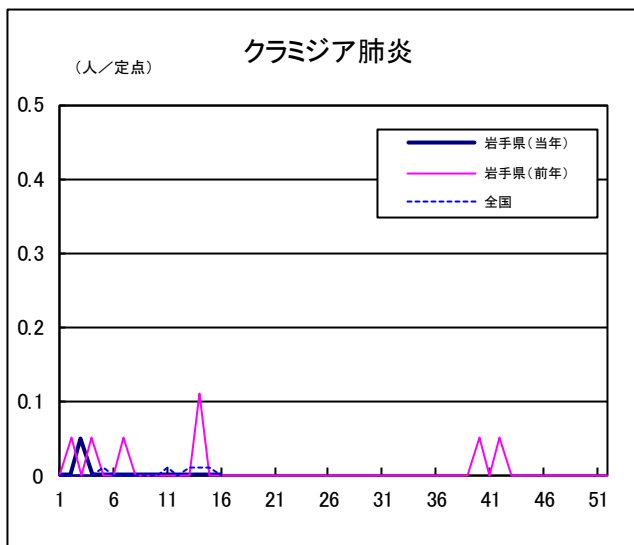
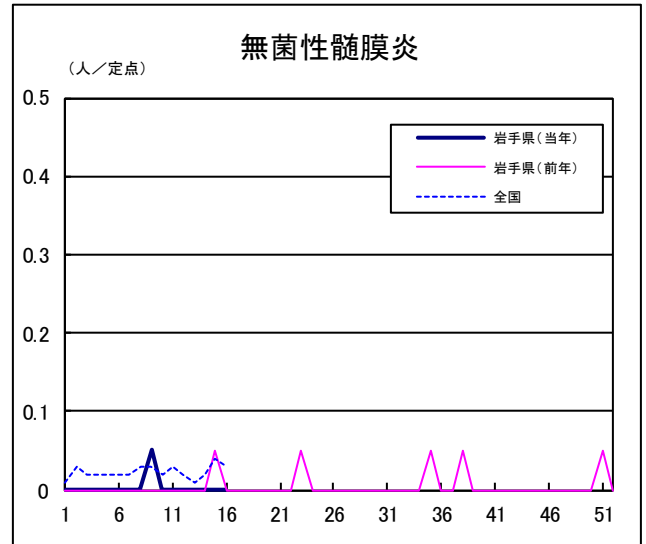
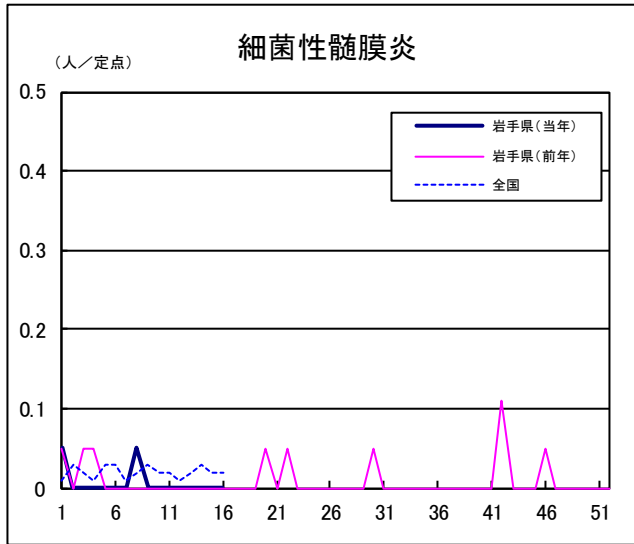
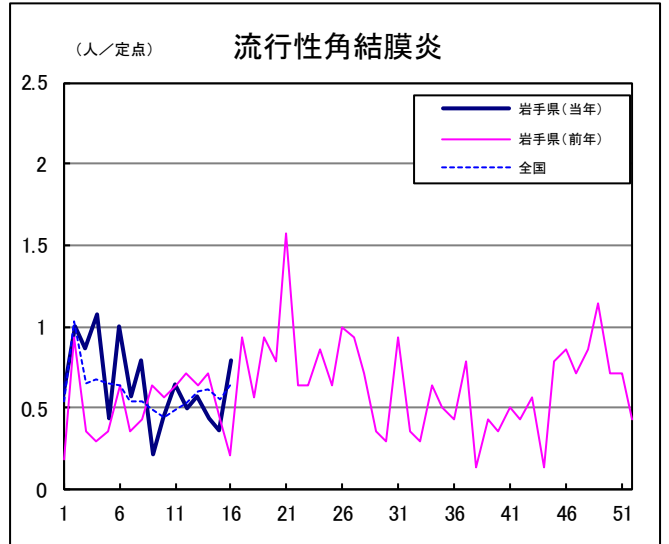
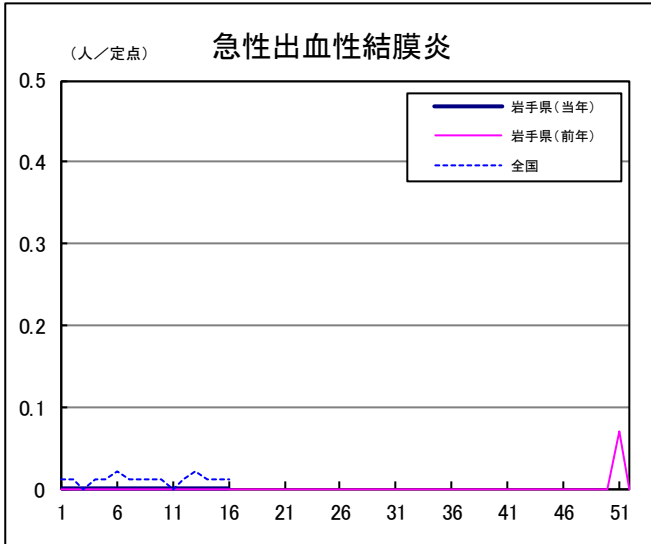
読者の皆様からのご質問にはこの欄でお答えします。

医療機関からの情報や読者の皆様からのご質問は下記の宛先までお寄せください。
岩手県感染症情報センター（岩手県環境保健研究センター保健科学部内）
〒020-0857 岩手県盛岡市北飯岡1-11-16
TEL:019-656-5669（直通） FAX:019-656-5667
E-mail: CC0019@pref.iwate.jp

疾病別グラフ (定点あたり患者数の推移)







定点医療機関の数

地区	定点種別	インフル エンザ	小児科定 点	眼科定点	基幹定点
岩手県		65	40	14	19
盛岡市		11	7	3	5
県央		8	5	2	0
中部		12	7	2	4
奥州		7	4	1	2
一関		7	4	1	2
大船渡		6	4	1	1
釜石		3	2	1	1
宮古		5	3	1	1
久慈		3	2	1	1
二戸		3	2	1	2



無料です!!

岩手の感染症情報を毎週メールでお届けする

「岩手県感染症情報ウィークリーマガジン」を配信しています。

配信の登録は以下のURLからお願いします。

<http://www2.pref.iwate.jp/~hp1353/kansen/mailmagazine.html>

岩手県感染症週報 平成31年第16週 平成31年4月26日発行

監修：岩手県感染症発生動向調査委員会

発行：岩手県環境保健研究センター
岩手県保健福祉部医療政策室

事務局：岩手県感染症情報センター
(岩手県環境保健研究センター保健科学部内)

〒020-0857 岩手県盛岡市北飯岡1-11-16

TEL:019-656-5669 (直通) FAX:019-656-5667

E-mail: CC0019@pref.iwate.jp

URL: <http://www2.pref.iwate.jp/~hp1353/kansen/>

<岩手県感染症情報センター>

<https://www.pref.iwate.jp/soshiki/hofuku/1016013.html>

<岩手県保健福祉部医療政策室>